

淡路島のスゲ属植物

岡 本 香*

The *Carex* species in the Island of Awaji

Kaori OKAMOTO*

1973年9月30日 受付

まえがき

淡路島は瀬戸内海の東端にあって、本州とは明石海峡と紀淡海峡で、四国とは鳴門海峡で隔離され、面積は 592.93 km²、南北 55 km、海岸線の長さ 161 km の島である。気候は表日本型気候で、瀬戸内型に属し、瀬戸内海の暖流に洗われている。地質は北部が領家変成岩帯と呼ばれ、主に酸性貫入火成岩であり、南部はほとんど中生代の白亜紀で、和泉砂岩層などもみられて、動植物の化石が発見されている。植物は暖地性の常緑広葉樹林や蔓性植物に富んでいる。またこの島は、古来より日本書紀などにも記載され、島内には史跡・名所・古跡などもあって、観光の島として知られている。

筆者は1973年8月上旬、この島でスゲ類の採集調査をした。この稿では、調査結果の概要について報告する。なお当調査にご協力下さった本学の学生で、根津和生・上西淳一の両君に感謝する。

調査地と植物景観

調査地は内陸で、論鶴羽山 (608.3 m)・柏原山 (569.3 m)・妙見山 (519 m)・常隆寺山 (515.3 m)・先山 (448 m)・摩耶山 (359.8 m)・三坂山 (302.9 m)・城ノ瀬山 (293.5 m)・南辺寺山 (273.3 m)・高倉山 (265 m)・掛牛山 (262.1 m)・竜宝寺山 (254.8 m)・城越山 (245 m)・木戸山 (224 m)・三熊山 (133 m) などの山群を中心に、また沿岸で東側は北から岩屋・浦・仮屋・下田・佐野・洲本・由良・水仙郷・吹上浜など、西側は南から鳴門岬・慶野松原・五色浜・都志・江井・郡家・尾崎・室津・富島・松帆浦などを中心に、これらの地域で、スゲ類を採集調査した。2・3の地域について、植物の概要を述べる。

妙見山地域

標高 519 m の妙見山は、淡路島の北部を代表とする山であり、山頂からの展望もすばらしく、付近には常隆寺山 (515.3 m) などがある。この地域の植物はアオキ・アカマツ・アカメガシワ・アキニレ・アキノタムラソウ・アラカシ・イタビカズラ・イヌガヤ・イヌシデ・イヌビワ・イヌマキ・ウツギ・ウバメガシ・ウバユリ・オニグルミ・カクレミノ・カゴノキ・カタクリ・クサギ・クズ・クスノキ・クリ・コマツナギ・コモチシダ・ゴンズイ・サルトリイバラ・シデザクラ

* 岡山理科大学生物科学教室 Department of Biology, Okayama College of Science, Shuku, Okayama, Japan.

・シロダモ・スギ・スダジイ・ゼンマイ・タブノキ・タラノキ・テイカカズラ・ニガキ・ヌルデ・ネズミモチ・ネムノキ・ノキシノブ・ノグルミ・ヒサカキ・ヒノキ・ハウロクイチゴ・ホルトノキ・マタタビ・マメズタ・ミズヒキ・ミツデウラボシ・ミミズバイ・ムラサキシキブ・ヤブソテツ・ヤブツバキ・ヤブマメ・ヤブラン・ヤマハゼ・ヤマビワ・ヤマモモなどが生育する。スゲ類はアオスゲ・アゼスゲ・アゼナルコ・イトスゲ・オオイトスゲ・カサスゲ・カワラスゲ・ケスゲ・ゴウソ・コジュズスゲ・サツマスゲ・ジュズスゲ・シラスゲ・ジングウスゲ・タチスゲ・ナキリスゲ・ノゲヌカスゲ・ヒカゲスゲ・ヒゴクサ・ヒメカンスゲ・ヒメモエギスゲ・マスクサ・ヤマアゼスゲ・ヤワラスゲなどが採集された。

先 山 地 域

淡路富士と呼ばれる先山は、標高 448 m の山で、山頂には淡路巡礼の第一番札所の千光寺があり、老樹の茂る境内の静けさは、敬虔な気持ちを抱かせる。また山頂からの展望は印象的である。この地域の植物はアオキ・アカマツ・アカメガシワ・アラカシ・イタビカズラ・イヌシデ・イロハカエデ・イワガラミ・ウバメガシ・ウラジロ・エノキ・カクレミノ・カタクリ・キクバドコロ・キズタ・クサギ・クスノキ・クマノミズキ・コシダ・コモチシダ・シロダモ・スギ・スダジイ・タケニグサ・タブノキ・タマシダ・タラノキ・タラヨウ・ノキシノブ・ヒサカキ・ビナンカズラ・ヒノキ・ヒメユズリハ・フモトシダ・ヘクソカズラ・マメズタ・ムラサキシキブ・ヤシャブシ・ヤブツバキ・ヤブニッケイ・ヤマビワ・ヤマフジ・ヤマモモなどが生育する。スゲ類ではアオスゲ・アブラシバ・カワラスゲ・ジュズスゲ・シラスゲ・タチスゲ・ナキリスゲ・ヒカゲスゲ・ヒゴクサ・ヒメカンスゲ・ヒメモエギスゲなどが採集された。

鮎 屋 地 域

鮎屋は淡路第一の滝があり、桜や紅葉のある散策地として知られている。この付近には鮎屋ダムもあり、溪谷美もみられる。この地域の植物はアオキ・アカマツ・アカメガシワ・アラカシ・イタドリ・イヌガヤ・イヌビワ・ウツギ・ウバメガシ・ウラジロ・ウラジロノキ・カクレミノ・カゴノキ・キズタ・クサギ・クス・クスノキ・コシダ・コマツナギ・コナラ・サルトリイバラ・サンショウ・スギ・スダジイ・ソメイヨシノ・ソヨゴ・タケニグサ・タブノキ・タラノキ・テイカカズラ・ナツフジ・ヌルデ・ネズミモチ・ネムノキ・ノグルミ・ノブドウ・ヒサカキ・ヒノキ・ホルトノキ・メドハギ・ヤシャブシ・ヤツデ・ヤブツバキ・ヤブニッケイ・ヤマザクラ・ヤマハゼ・ヤマモモ・ワラビなどが生育している。スゲ類ではアオスゲ・アゼスゲ・アブラシバ・アワボスゲ・オオイトスゲ・オタルスゲ・カサスゲ・カワラスゲ・ゴウソ・シバスゲ・ジュズスゲ・シラスゲ・タチスゲ・ナキリスゲ・ヒカゲスゲ・ヒゴクサ・ヒメカンスゲ・ヒメモエギスゲ・ホソバヒカゲスゲ・マスクサ・マツバスゲなどが採集された。

三 熊 山 地 域

国立公園の三熊山は、標高 133 m の低い山で、山頂には城跡があり、暖地性植物の林相が保

護されている。この山は植物分布学上から、興味ある点が多く、この山の植物研究家である故松沢重太郎氏などによって、既に報告されている。山頂からは紀淡海峡や白砂青松の美しい大浜海岸など、自然美は格別である。この地域の植物はアオキ・アカマツ・アカメガシワ・アラカシ・アリドウシ・イシカグマ・イタビカズラ・イヌシデ・イヌビワ・イヌマキ・イノコズチ・ウバメガシ・ウラジロ・エノキ・カクレミノ・カゴノキ・カンコノキ・カンザブrouノキ・キズタ・クサギ・クズ・クスノキ・クマノミズキ・クリ・クロガネモチ・クロバイ・クロマツ・ケヤキ・コウヤボウキ・コシダ・コムラサキ・ゴンズイ・サカキカズラ・サルトリイバラ・サンゴジュ・シデザクラ・シャシャンボ・シロダモ・スギ・スダジイ・センリョウ・ソヨゴ・タイミンタチバナ・タブノキ・タラノキ・タラヨウ・テイカカズラ・ドクダミ・トベラ・ナンバンキブシ・ヌルデ・ノキシノブ・ノグルミ・バクチノキ・ヒトツバ・ヒノキ・ヒメユズリハ・フウトウカズラ・ホウロクイチゴ・ホソバカナワラビ・ホルトノキ・マメズタ・ミミズバイ・ムクノキ・ムラサキシキブ・モチノキ・モッコク・ヤツデ・ヤブコウジ・ヤブソテツ・ヤブツバキ・ヤブニッケイ・ヤマハギ・ヤマビワ・ヤマモモ・リンボクなどが生育している。スゲ類ではアオスゲ・アゼナルコ・カワラスゲ・ケスゲ・ゴウソ・コジュズスゲ・シバスゲ・ジュズスゲ・シラスゲ・タチスゲ・タマツリスゲ・ナキリスゲ・ノゲヌカスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・ヒメモエギスゲ・マスクサ・マツバスゲなどが採集された。

柏原山地域

淡路島の南部に連なる山中の柏原山は、標高 569.3 m である。頂上からの展望は、紀淡海峡を見おろす絶景である。この地域の植物はアオキ・アカマツ・アカメガシワ・アキニレ・アラカシ・アリマグミ・イスノキ・イヌシデ・イヌビワ・イロハカエデ・ウツギ・ウバメガシ・ウバユリ・ウラジロ・ウラジロノキ・エノキ・オニグルミ・カクレミノ・カンコノキ・カンザブrouノキ・キズタ・クサギ・クジャクシダ・クズ・クスノキ・クリハラン・クロマツ・ケヤキ・コウザキシダ・コシダ・コウヤボウキ・コナラ・サルトリイバラ・シキミ・スギ・スダジイ・タブノキ・タラノキ・テイカカズラ・ヌルデ・ネムノキ・ネズミモチ・ノキシノブ・ヒノキ・ヒメユズリハ・ヘクソカズラ・ホルトノキ・ミミズバイ・ヤシャブシ・ヤブツバキ・ヤブニッケイ・ヤマボウシ・ヤマモモなどが生育している。スゲ類はオオイトスゲ・カワラスゲ・ジュズスゲ・シラスゲ・ナキリスゲ・ノゲヌカスゲ・ヒカゲスゲ・ヒゴクサ・ヒメカンスゲ・マスクサなどが採集された。

諭鶴羽山地域

標高 608.3 m の諭鶴羽山は、通称諭鶴羽山脈にあり、南側は急斜面で、その山麓は黒潮に洗われている。山頂からは四国や紀伊地方の山群が遠望できる。この地域の植物はアオキ・アカマツ・アカメガシワ・アラカシ・イスノキ・イタドリ・イヌガシ・イヌツゲ・イヌマキ・ウバメガシ・ウラジロ・エゴノキ・オカトラノオ・オガタマノキ・カクレミノ・カンザブrouノキ・カヤ・クサギ・コウザキシダ・コナラ・コマユミ・スダジイ・ソヨゴ・タイミンタチバナ・タブノキ

・タマシダ・タラノキ・ツクバネガシ・テリハノイバラ・トキワススキ・ノキシノブ・ノグルミ
 ・ノブドウ・ヒサカキ・ヒメユズリハ・フウトウカズラ・ハウロクイチゴ・ホルトノキ・マサキ
 ・マルバグミ・マルバシャリンバイ・マルバニッケイ・ミミズバイ・ミヤマシキミ・モッコク・
 モチノキ・ヤブツバキ・ヤマボウシ・ヤマモモ・ワラビなどが生育する。スゲ類ではアゼスゲ・
 アゼナルコ・アブラシバ・イトスゲ・カワラスゲ・ゴウソ・ケスゲ・ジュズスゲ・ナキリスゲ・
 ヒカゲスゲ・ヒゴクサ・ヒメカンスゲなどが採集された。

鳴 門 岬 地 域

淡路島の最南端にある鳴門岬は、鳴門海峡に伸びた細長い岬で、急潮や渦潮を目前に見ることができて、美しい岬の自然美が素晴らしい場所である。この地域の植物はアオキ・アカメガシワ
 ・イスノキ・イソギク・ウバメガシ・エノキ・オカヒジキ・オニシバ・オニヤブソテツ・クサギ
 ・クズ・クロマツ・サルトリイバラ・タイトゴメ・ダンチク・ツルナ・ツワブキ・テリハノイバ
 ラ・トキワススキ・トベラ・ネコノシタ・ハマイヌビワ・ハマウド・ハマエノコロ・ハマエンド
 ウ・ハマゴウ・ハマナタマメ・ハマナデシコ・ハマニガナ・ハマヒサカキ・ハマヒルガオ・ハマ
 ボウフウ・ハマヨモギ・ハスノハカズラ・ビロウドテンツキ・ホソバノハマアカザ・ホルトノキ
 ・マサキ・メヒシバ・ヤブツバキ・ヤマフジなどが生育する。スゲ類ではアオスゲ・コウボウシ
 バ・コウボウムギ・ジュズスゲ・ジングウスゲ・ノゲヌカスゲ・ハマアオスゲ・ヒカゲスゲ・マ
 スクサなどが採集された。

慶 野 松 原 地 域

風光美にすぐれた白砂の海岸で、クロマツ林があり、淡路島の代表的な海水浴場である。この
 地域の植物はアオビユ・アカメガシワ・イタドリ・ウバメガシ・オオマツヨイグサ・オカヒジキ
 ・オニシバ・クサギ・クズ・クロマツ・ダンチク・ツルナ・テリハノイバラ・トベラ・ハスノハ
 カズラ・ハマアカザ・ハマエンドウ・ハマウド・ハマゴウ・ハマヒルガオ・ハマヨモギ・ママコ
 ノシリヌグイ・メヒシバ・ヤシャブシなどが生育する。スゲ類ではコウボウシバ・コウボウムギ
 ・ハマアオスゲなどが採集された。

ス ゲ 属 植 物 目 録

スゲ類はすでに花期を過ぎていたが、33種3変種を採集し確認することができた。それらは次の通りである。

Carex alterniflora Fr. (オオイトスゲ), *C. biwensis* Fr. (マツバスゲ), *C. conica* Boott (ヒメカンスゲ), *C. dimorpholepis* Steud. (アゼナルコ), *C. dispalata* Boott (カサスゲ), *C. doniana* Spreng. (シラスゲ), *C. duvaliana* Fr. et Sav. (ケスゲ), *C. fernaldiana* Lév. et Van. (イトスゲ), *C. fibrillosa* Fr. et Sav. (ハマアオスゲ), *C. filipes* Fr. et Sav. (タマツリスゲ), *C. gibba* Wahlenb. (マスクサ), *C. heterolepis* Bunge (ヤマアゼスゲ), *C. humilis* Leyss. var. *nana* Ohwi

(ホソバヒカゲスゲ), *C. incisa* Boott (カワラスゲ), *C. ischnostachya* Steud. (ジュズスゲ), *C. japonica* Thunb. (ヒゴクサ), *C. kobomugi* Ohwi (コウボウムギ), *C. lanceolata* Boott (ヒカゲスゲ), *C. leucochlora* Bunge (アオスゲ), *C. ligulata* Nees (サツマスゲ), *C. macroglossa* Fr. et Sav. (コジュズスゲ), *C. maculata* Boott (タチスゲ), *C. maximowiczii* Miq. (ゴウソ), *C. mitrata* Fr. var. *aristata* Ohwi (ノゲヌカスゲ), *C. nakiri* Ohwi (ナキリスゲ), *C. nervata* Fr. et Sav. (シバスゲ), *C. nipposinica* Ohwi (アワボスゲ), *C. otaruensis* Fr. (オタルスゲ), *C. phacota* Spreng. var. *gracilispica* Kükenth. (ヒメゴウソ), *C. pocilliformis* Boott (ヒメモエギスゲ), *C. pumila* Thunb. (コウボウシバ), *C. sacrosancta* Honda (ジングウスゲ), *C. satsumensis* Fr. et Sav. (アブラシバ), *C. sendaica* Fr. (センダイスゲ), *C. thunbergii* Steud. (アゼスゲ), *C. transversa* Boott (ヤワラスゲ).

考察および結言

淡路島の植物については、すでに兵庫の自然や兵庫県植物目録などの文献で、報告されている。しかしこれらの文献中で、スゲ類については、兵庫県植物目録に11種1変種を記載されているのみである。筆者はスゲ類の採集調査を試み、その結果33種3変種を確認することができた。これらのスゲ類は主として温帯に分布するアゼスゲ・オオイトスゲ・オタルスゲ・カワラスゲ・ゴウソ・コジュズスゲ・タマツリスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・ホソバヒカゲスゲ・マスクサ・ヤマアゼスゲなど、温帯から暖帯に分布するアオスゲ・アワボスゲ・イトスゲ・カサスゲ・ケスゲ・コウボウムギ・シバスゲ・ジュズスゲ・シラスゲ・センダイスゲ・ナキリスゲ・ヒゴクサ・マツバスゲ・ヤワラスゲなど、温帯から亜熱帯に分布するアブラシバ・コウボウシバ・ハマアオスゲなど、温帯から熱帯に分布するアゼナルコ・ヒメゴウソなど、暖帯に分布するジングウスゲ・ノゲヌカスゲなど、暖帯から亜熱帯に分布するサツマスゲ・タチスゲ・ヒメモエギスゲなどがある。淡路島と比較のため、瀬戸内海諸島で24の島を調査し、その結果59種3変種のスゲ類を確認した。それらのスゲ類中で、比較的出现度の高いものから、どの島にもあるスゲ類はアオスゲ・ヒカゲスゲ・ヒメカンスゲ・ナキリスゲ・ヒメモエギスゲ・マスクサ・ハマアオスゲ・ノゲヌカスゲ・シラスゲ・ヤワラスゲなどの順になっている。特に種数の多い宮島(32種1変種)や小豆島(24種2変種)の2島について、淡路島と比較すれば、これらの3島にみられるスゲ類はアオスゲ・カワラスゲ・ケスゲ・ゴウソ・コウボウシバ・サツマスゲ・ジュズスゲ・シラスゲ・センダイスゲ・タチスゲ・ナキリスゲ・ノゲヌカスゲ・ヒカゲスゲ・ヒゴクサ・ヒメモエギスゲ・マスクサ・ヤワラスゲなどである。淡路島と宮島のみにあるスゲ類はオオイトスゲ・カサスゲ・シバスゲ・ハマアオスゲ・ヒメカンスゲ・マツバスゲなどである。淡路島と小豆島のみにあるスゲ類はアワボスゲ・イトスゲ・コウボウムギ・ホソバヒカゲスゲ・ヤマアゼスゲなどである。淡路島のみにあるスゲ類はアゼナルコ・アブラシバ・ジングウスゲ・タマツリスゲ・ヒメゴウソなどである。さらに淡路島と36種3変種を確認した隠岐群島の島後と比較すれば、どちらの島も500~600 m前後の山群がある。スゲ類中で山岳地域に出現度の高いオクノカンスゲ・カン

スゲ・コカンスゲ・ショウジョウスゲ・ナルコスゲ・ヒメシラスゲ・ミヤマカンスゲなどが、隠岐の島後において、淡路島では採集されなかった。これは地形や気候の差異によるものと思われる。淡路島は 600 m 前後の山はあるが、比較的谷も少なく、開けた地域が多いことも考えられる。海浜に生育するスゲ類で、慶野松原以外では、東浦でハマアオスゲ、大浜でコウボシバ・コウボウムギ・由良でコウボウシバ・コウボウムギ・ハマアオスゲ、水仙郷でハマアオスゲ、吹上浜でコウボウシバ・コウボウムギ・ハマアオスゲ、福良でコウボウムギ、都志でコウボウシバ、江井でコウボウシバ、郡家でコウボウムギ・ハマアオスゲ、尾崎でコウボウシバ・コウボウムギ・ハマアオスゲ、室津でコウボウシバ、富島でハマアオスゲ、松帆浦でコウボウムギ・ハマアオスゲなどが採集された。

今回の調査で、淡路島のスゲ類についての手がかりとなった。今後の課題は、未調査地域の調査で、スゲ類の生態や分布などについても検討し、この島のスゲ類のフロラを明らかにしたい。

参 考 文 献

- 秋山茂雄 (1955) 極東亜産スゲ属植物。札幌, 北大。
 大井次三郎 (1965) 日本植物誌。東京, 至文堂。
 岡本 香 (1962) 宮島のスゲ類について。ヒコピア: 第 3 巻・第 2 号・152。
 ——— (1965) Taxonomic study of the Carices in the western Honshu of Japan. 岡山理科大学紀要: 第 1 号・1—105。
 ——— (1967) 隠岐のスゲ属植物。岡山理科大学紀要: 第 3 号・27—33。
 ——— (1970) 岡山県産スゲ属植物。岡山理科大学紀要: 第 6 号・133—154。
 ——— (1970) 四国産スゲ属植物。岡山理科大学紀要: 第 6 号・155—170。
 ——— (1971) 島根県産スゲ属植物。岡山理科大学紀要: 第 7 号・93—119。
 ——— (1972) 鳥取県産スゲ属植物。岡山理科大学紀要: 第 8 号・11—33。
 岡本省吾 (1965) 原色樹木図鑑。大阪, 保育社。
 北村四郎・他 (1965) 原色日本植物図鑑上・中・下。大阪, 保育社。
 ——— (1971) 原色日本植物図鑑 (木本編 I)。大阪, 保育社。
 人文社編集部 (1968) 日本分県地図地名総覧。東京, 人文社。
 紅谷進二編 (1966) 兵庫の自然。大阪, 六月社。
 ——— (1971) 兵庫県植物目録。大阪, 六月社書房。
 牧野富太郎 (1966) 牧野新日本植物図鑑。東京, 北隆館。
 松田 清 (1970) 最新旅行案内: 大阪・神戸。東京, 日本交通公社。
 吉川純幹 (1957・1958・1960) 日本産スゲ属植物図譜 1—3。金沢, 北陸の植物の会。
 和達清夫 (1960) 日本の気候。東京, 東京堂。
 和楽路屋 (1973) 淡路島全図。大阪。

Summary

The Island of Awaji situated in the Inland Sea of Japan has been known as a tourist resort with places of scenic and historic interest. In August 1973, a collection and investigation of *Carex* species in the Awaji district was carried out. As a result of investigation, 33 species and 3 varieties of *Carex* are recognized.